

生駒山鳥獸保護区

**鳥獸保護区更新調査業務
報告書**

平成 31 年度

大阪府環境農林水産部動物愛護畜産課

目次

1. 調査の目的.....	1
2. 調査区域及び調査対象.....	1
3. 調査内容.....	2
4. 調査地の概要及び環境.....	2
5. 調査方法.....	3
6. 調査範囲・調査地点.....	4
7. 調査結果.....	5
7-1 鳥類現地調査結果.....	5
7-2 哺乳類現地調査結果.....	12
7-3 文献調査結果.....	14
8. まとめ.....	19
9. 参考文献.....	22

1. 調査の目的

この調査は、大阪府が指定した既存鳥獣保護区のうち、生駒山鳥獣保護区の存続期間の更新等についての検討資料とするため、その地域における野生鳥獣の生息状況など地域の自然環境に関する基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査区域及び調査対象

生駒山鳥獣保護区に生息する野生鳥獣等を調査対象とする。生駒山鳥獣保護区の範囲は図 2-1 に示す。



図 2-1 生駒山鳥獣保護区の範囲

3. 調査内容

現地調査及び既存データの整理により、下記の事項を把握する。

- ・ 鳥獣生息状況（リスト作成）、生息密度、特色
- ・ 利用状況（野鳥観察者数など）

4. 調査地の概要及び環境

生駒山鳥獣保護区は、奈良県と境を接する大阪府の東大阪市及び八尾市の東側、生駒山系の西面に位置し、面積は 2,100ha である。北部には標高 642m の生駒山があり、南部には標高 487m の高安山があって、保護区内の大半は山麓から尾根に至る山地地形を呈している。南端は柏原市、北端は大東市に面し、大東市を隔てた北には四条畷鳥獣保護区がある。当該地区の西部を除く範囲は金剛生駒紀泉国定公園に指定されており、自然環境の保全上も重要な地域となっている。

生駒山地は暖温帯に属しており、本来は照葉樹林に覆われている地域である。しかし古くから人間活動の影響を受けており、本来の植生は樹木の伐採が規制された社寺林にしか残っていない。現在の生駒山地の山林の大半を占めるのは二次林である。生駒山地の二次林は土壤が乾燥型で貧栄養であることからアカマツ・モチツツジ群集が広く覆っていたが、近年の松枯れ被害により現在まとまって見られるのは北部の生駒山周辺の尾根部に限られている。以降、二次林の大部分はアカマツの出現しないアベマキ・コナラ群集に置き換わったと言われている。さらにここ数年にはナラ枯れ病のまん延があり、枯死木が伐採されたり、強い台風の影響も加わって、樹冠が失われたギャップによる森林全体の荒廃が危惧されている。一方、生駒山系は土壤条件が悪く林業に向いていなかったことから、人工林がほとんどなく、スギ・ヒノキ・サワラ植林は全域に点在するのみである。また、保護区の西端には広く市街地が分布しているが、南半分の高安地域には、水田雑草群落や畑雑草群落がまとまってみられる。

鳥獣保護区内にある、府民の森中河内地区 4 園地（くさか園地、ぬかた園地、なるかわ園地、みずのみ園地）は、平成 30 年度に総計で、228,851 人の利用者を数え、ハイカーや自然愛好家の憩いの場として人気が高い。また、東大阪市域の山麓にある枚岡公園も多くのハイカーや行楽客が利用するほか、枚岡神社や梅林にも多くの参詣客が訪れる。また、日本野鳥の会大阪支部の定例探鳥会が毎月開催され、毎回 30 名ほどの参加者がある。八尾市域の高安山へは、近鉄の西信貴ケーブルが営業している。その山麓は高安地域として、古くから花卉・植木栽培で著名である。標高 100m までの緩斜面に分布する数百に及ぶため池では、希少となった在来魚類ニッポンバラタナゴの生息が確認されており、近年、これを軸とした自然再生事業が、NPO が主体となって企画されている。

参考：「八尾の自然と文化」（岡野浩・西辻豊・太田博之編, 2017 年 9 月）

「事業報告書」（一般財団法人大阪府みどり公社, 2019 年 3 月）

「生物多様性保全上重要な里地里山」（環境省, <https://www.env.go.jp/nature/satoyama/jyuuyousatoyama.html>）

「関西の活かしたい自然エリア」（関西広域連合, 平成 28 年 11 月,

<https://www.kouiki-kansai.jp/material/files/group/10/1479092305.pdf>）

5. 調査方法

調査は、現地調査および表 5-1 に示す文献による文献調査を実施した。

現地調査は、ラインセンサス法と、任意観察を実施した。ラインセンサス法では、調査ルートを約 2km/h の速度で歩き、片側 25m 両側合わせて 50m の範囲の鳥獣を記録した。調査ルートは、山腹の樹林から稜線付近の農耕地に至るルート 1 (2.38km)、山麓の田畑や樹木園のルート 2 (1.89km) の 2 箇所を設定した。各ルートの位置は図 6-1 に示すとおりである。任意観察では、保護区内の農耕地、市街地、ため池など局所的な環境の生息種や、猛禽類など広域な生活基盤を持つ種の生息状況を意識し、保護区内の要所を任意に歩いて確認された鳥類を記録した。調査時期は、繁殖期及び越冬期とした。

確認された種から重要種を抜粋した。重要種の選定基準は表 5-2 に示すとおりである。

表 5-1 参考文献

文献 No.	文献名	発行年・発行者
文献 1	枚岡公園定例探鳥会出現鳥記録	2010 年～2019 年・日本野鳥の会大阪支部
文献 2	なるかわ園地鳥類標識調査記録	山根みどり氏私信 (2010 年～2017 年)
文献 3	大阪府鳥類目録 2016	2016 年・日本野鳥の会大阪支部

表 5-2 重要種の選定基準

選定基準
絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 (種の保存法)
環境省レッドリスト 2019 (環境省 R L)
大阪府レッドリスト 2014 (大阪府 R L)

6. 調査範囲・調査地点

調査範囲は生駒山鳥獣保護区全域とした。ラインセンサスに用いたルートは図 6-1 に示すとおりである。

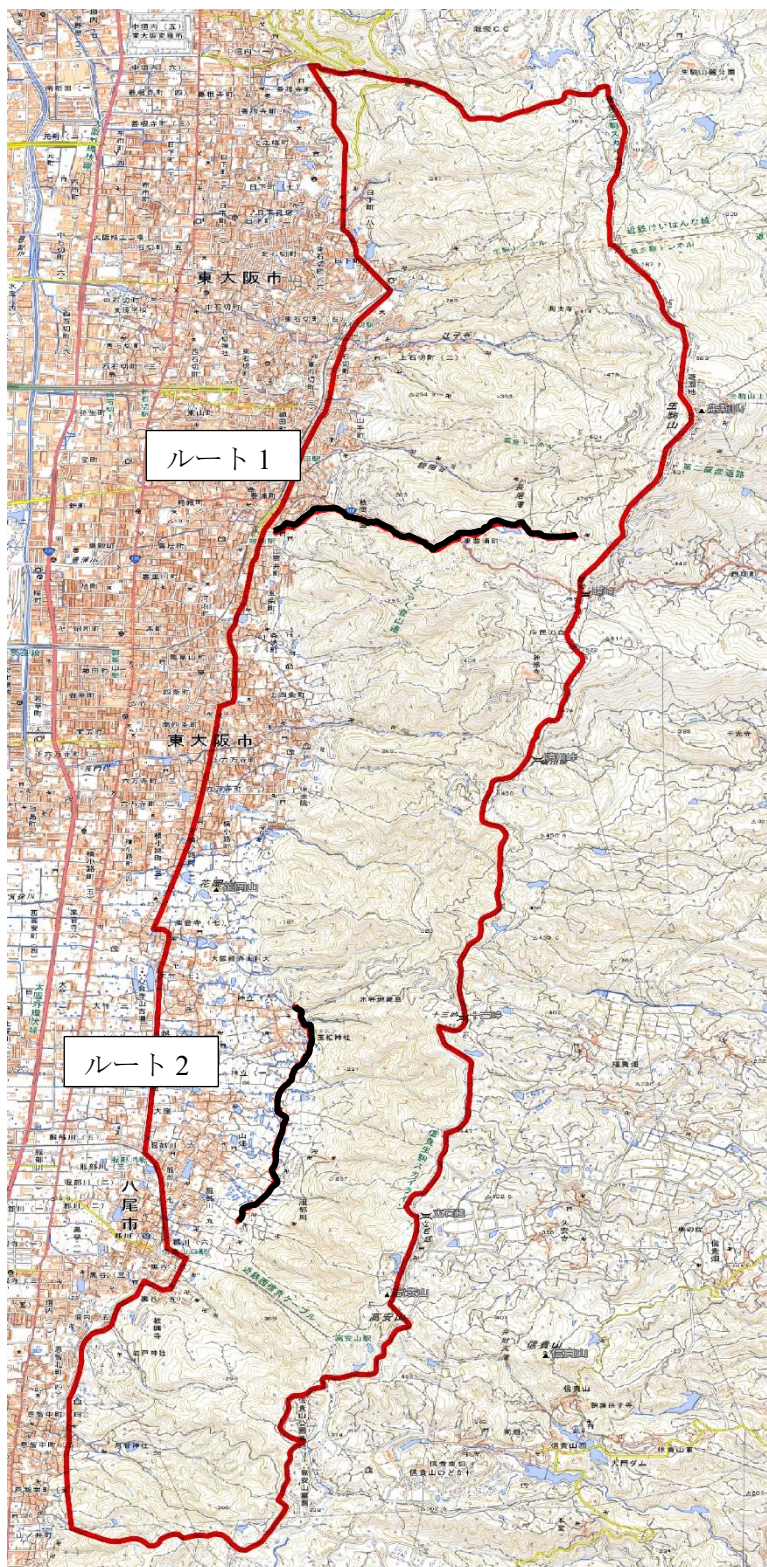


図 6-1 調査地点

7. 調査結果

7-1 鳥類現地調査結果

① 調査時期・天候・時間

現地調査時期、天候、調査時間を表 7-1 に示す。

表 7-1 調査時期・天候・調査時間

調査時期	調査日時	天候	調査時間	
繁殖期	令和元年 6 月 8 日	曇り のち雨	R1	8:22~9:39
			R2	7:45~8:40
			任意	9:13~12:30
	令和元年 6 月 12 日	晴れ	任意	7:20~11:25
越冬期	令和 2 年 12 月 8 日	晴れ	R1	7:45~8:56
			R2	8:56~10:38
			任意	8:10~14:43

② 鳥類確認種

現地調査の結果、12目27科54種の鳥類を確認した。確認種の一覧を表7-2に示す。

現地調査で確認した鳥類の渡り区分は、留鳥28種、夏鳥9種、冬鳥15種であり、留鳥52%、夏鳥16%、冬鳥28%と、一年を通してみられる留鳥が半分以上を占めた（図7-1）。渡り区分の分類は、「大阪府鳥類目録2016」（2017年3月31日、（財）日本野鳥の会大阪支部）に従った。

渡り区分	種数	割合
留鳥	28種	52%
夏鳥	9種	17%
冬鳥	15種	28%
外来種	2種	4%

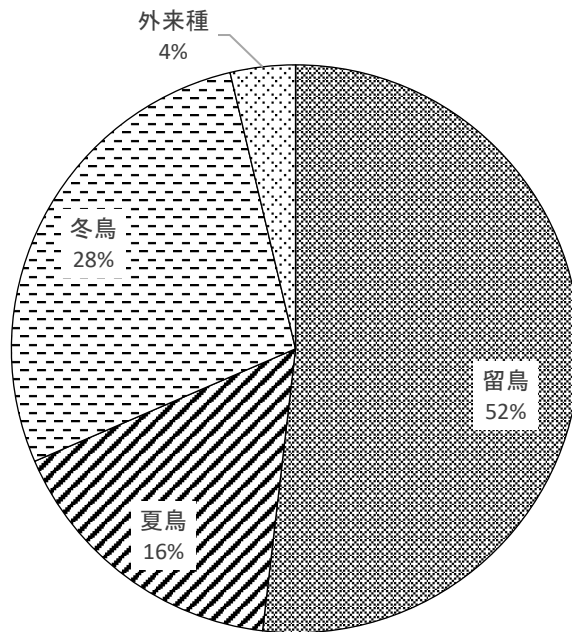


図7-1 現地調査 渡り区分の内訳

表 7-2 現地調査 鳥類確認種

No.	目名	科名	学名	種名	繁殖期	越冬期	渡り区分		
1	カモ	カモ	<i>Anas zonorhyncha</i>	カルガモ	○		留鳥		
2			<i>Anas clypeata</i>	ハシビロガモ		○	冬鳥		
3			<i>Aythya fuligula</i>	キンクロハジロ		○	冬鳥		
4	カイツブリ	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>	カイツブリ	○	○	留鳥		
5	ハト	ハト	<i>Streptopelia orientalis</i>	キジバト	○	○	留鳥		
6	カツオドリ	ウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	カワウ	○	○	留鳥		
7	ペリカン	サギ	<i>Ardea cinerea</i>	アオサギ	○	○	留鳥		
8			<i>Ardea alba</i>	ダイサギ	○		留鳥		
9			<i>Egretta garzetta</i>	コサギ	○		留鳥		
10	カッコウ	カッコウ	<i>Cuculus poliocephalus</i>	ホトトギス	○		夏鳥		
11	タカ	タカ	<i>Accipiter nisus</i>	ハイタカ		○	冬鳥		
12			<i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ	○	○	留鳥		
13			<i>Buteo buteo</i>	ノスリ		○	冬鳥		
14	ブッポウソウ	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	カワセミ	○		留鳥		
15	キツツキ	キツツキ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	コゲラ	○	○	留鳥		
16			<i>Dendrocopos major</i>	アカゲラ		○	冬鳥		
17			<i>Picus awokera</i>	アオゲラ	○	○	留鳥		
18	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco tinnunculus</i>	チョウゲンボウ		○	留鳥		
19	スズメ	カササギヒタキ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	サンコウチョウ	○		夏鳥		
20		モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	モズ		○	留鳥		
21		カラス	<i>Garrulus glandarius</i>	カケス	○		留鳥		
22	<i>Corvus corone</i>		ハシボソガラス	○	○	留鳥			
23	<i>Corvus macrorhynchos</i>		ハシブトガラス	○	○	留鳥			
24	シジュウカラ		<i>Poecile varius</i>	ヤマガラ	○	○	留鳥		
25			<i>Parus minor</i>	シジュウカラ	○	○	留鳥		
26	ツバメ		<i>Hirundo rustica</i>	ツバメ	○		夏鳥		
27	ヒヨドリ		<i>Hypsipetes amaurotis</i>	ヒヨドリ	○	○	留鳥		
28	ウグイス		<i>Cettia diphone</i>	ウグイス	○	○	留鳥		
29			<i>Urosphena squameiceps</i>	ヤブサメ	○		夏鳥		
30	エナガ		<i>Aegithalos caudatus</i>	エナガ	○	○	留鳥		
31	ムシクイ		<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ	○		夏鳥		
32	メジロ		<i>Zosterops japonicus</i>	メジロ	○	○	留鳥		
33	ヒタキ		<i>Turdus cardis</i>	クロツグミ	○		夏鳥		
34			<i>Turdus pallidus</i>	シロハラ		○	冬鳥		
35			<i>Turdus naumanni</i>	ツグミ		○	冬鳥		
36			<i>Tarsiger cyanurus</i>	ルリビタキ		○	冬鳥		
37			<i>Phoenicurus auroreus</i>	ジョウビタキ		○	冬鳥		
38			<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ	○		夏鳥		
39			<i>Ficedula narcissina</i>	キビタキ	○		夏鳥		
40			<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	オオルリ	○		夏鳥		
41			スズメ		<i>Passer montanus</i>	スズメ	○	○	留鳥
42			セキレイ		<i>Motacilla cinerea</i>	キセキレイ		○	留鳥
43					<i>Motacilla alba</i>	ハクセキレイ	○	○	留鳥
44	アトリ		<i>Chloris sinica</i>	カワラヒワ	○	○	留鳥		
45			<i>Uragus sibiricus</i>	ベニマシコ		○	冬鳥		
46			<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	ウソ		○	冬鳥		
47			<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	シメ		○	冬鳥		
48			<i>Eophona personata</i>	イカル	○	○	留鳥		
49			ホオジロ		<i>Emberiza cioides</i>	ホオジロ	○	○	留鳥
50	<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ				○	冬鳥		
51	<i>Emberiza spodocephala</i>	アオジ				○	冬鳥		
52	<i>Emberiza variabilis</i>	クロジ				○	冬鳥		
53	キジ	キジ	<i>Bambusicola thoracicus</i>	コジュケイ	○	○	外来		
54	スズメ	チメドリ	<i>Leiothrix lutea</i>	ソウシチョウ	○	○	外来		
合計	12 目	27 科	54 種		36 種	40 種	—		

・分類及び配列は「日本鳥類目録 改訂第7版」(2012年, 日本鳥学会)に従った。

・渡り区分の分類は、「大阪府鳥類目録 2016」(2017年3月31日, (財)日本野鳥の会大阪支部)に従った。

③ 鳥類の繁殖状況

繁殖期調査において確認された 36 種については、いずれも調査範囲及びその周辺で繁殖している可能性がある（繁殖ランク C に該当）。このうち 24 種は現地調査において繁殖を示唆する行動が確認され（繁殖ランク B 及び A）、調査範囲内で繁殖している可能性が高い。その内訳は表 7-3 に示すとおりである。繁殖行動の判定基準は、全国鳥類繁殖分布調査における繁殖ランク（NPO 法人バードリサーチ、<https://bird-atlas.jp/map.html#yoshi>）に準じた。

表 7-3 鳥類の繁殖状況

ランク	観察コード	観察事項	該当種
A (繁殖を確認) 6 種	12	成鳥が巣のあるらしい所にとびこむと同時にヒナの餌をねだる声がきかれた	スズメ
	14	成鳥が巣のヒナに餌を運搬している（餌をくわえたまま観察者を警戒し移動する気配のない場合を含む）	オオルリ
	21	巣からほとんど移動していないと思われる巣立ちヒナを見た	コゲラ、シジュウカラ、センダイムシクイ、キビタキ
B (繁殖の可能性が高い) 24 種	30	その種が営巣し得る環境で繁殖期に、その種のさえずり（キツツキ類のドラミングを含める）を聞いた。ただし、その鳥が冬鳥、旅鳥かもしれない時は除く	キジバト、ホトトギス、アオゲラ、サンコウチョウ、ヤマガラ、シジュウカラ、ウグイス、ヤブサメ、センダイムシクイ、メジロ、クロツグミ、コサメビタキ、キビタキ、オオルリ、カワラヒワ、イカル、ホオジロ、コジュケイ、ソウシチョウ
	35	造巣行動（巣穴堀りを含む）を見た	カイツブリ
	36	成鳥が巣材を運搬している。ただし、明らかに周囲に巣を構えていると思われる場合に	スズメ
	37	成鳥がヒナへの餌を運搬しているが、巣が周囲にあるかどうかわからない	ホオジロ
	39	かなり移動可能と思われる巣立ちヒナを見た	コゲラ、ツバメ、ウグイス、エナガ、スズメ
C (繁殖の可能性あり) 12 種	50	その種が営巣し得る環境で繁殖期にその種を確認したが、他には繁殖の兆候が認められない。ただし冬鳥または旅鳥は過去にその地方で繁殖の記録があるもの	カルガモ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオタカ、カワセミ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ハクセキレイ

※全国鳥類繁殖分布調査における繁殖ランク（2014, NPO 法人バードリサーチ <https://bird-atlas.jp/map.html#yoshi>）を参照し、該当箇所を抜粋して作成した。

④ 鳥類の生息個体数

ラインセンサスによる調査の結果調査の結果、7目 22科 36種 446羽の鳥類を確認した。各ルートにおける調査回毎の個体数を表 7-4 に示す。ルート1では28種 209羽、ルート2では25種 237羽を確認した。繁殖期には山林を主な環境とするルート1ではサンコウチョウ、センダイムシクイ、キビタキなど多くの夏鳥が生息していたが、山麓の樹木圃場等を通るルート2では、スズメ、ツバメなど人家に営巣する種が多く見られるのみで、地点間の種数の差が大きかった。一方、越冬期にはルート1でカシラダカ、シロハラなどの冬鳥が見られたものの、ルート2でもハイタカ、ジョウビタキ、アオジなどの冬鳥が多く、また山林などから漂行してきたヒヨドリやメジロも多く確認されて、種数・個体数ともルート1を上回った。

表 7-4 調査回・ルート毎の確認個体数

No.	目名	科名	種名	ルート1			ルート2			総計	
				繁殖期	越冬期	計	繁殖期	越冬期	計		
1	ハト	ハト	キジバト				1	6	7	7	
2	カツオドリ	ウ	カワウ					1	1	1	
3	ペリカン	サギ	ダイサギ				1		1	1	
4	タカ	タカ	ハイタカ					1	1	1	
5			オオタカ				1		1	1	
6			ノスリ		1	1		1	1	2	
7	キツツキ	キツツキ	コゲラ	5	3	8		3	3	11	
8			アオゲラ		1	1				1	
9	スズメ	カササギヒタキ	サンコウチョウ	2		2				2	
10		モズ	モズ		2	2		1	1	3	
11		カラス	ハシブトガラス	3	4	7		7	7	14	
12		シジュウカラ	ヤマガラ	1	1	2		2	2	4	
13			シジュウカラ	4	2	6	3	1	4	10	
14		ツバメ	ツバメ	8		8	13		13	21	
15		ヒヨドリ	ヒヨドリ	10	19	29	2	39	41	70	
16		ウグイス	ウグイス	7	3	10		7	7	17	
17			ヤブサメ	2		2				2	
18		エナガ	エナガ	12	10	22		12	12	34	
19		ムシクイ	センダイムシクイ	2		2				2	
20		メジロ	メジロ	11	9	20		41	41	61	
21		ヒタキ	シロハラ		3	3		3	3	6	
22			ジョウビタキ					2	2	2	
23			キビタキ	4		4				4	
24			オオルリ	1		1				1	
25		スズメ	スズメ	6		6	29	24	53	59	
26		セキレイ	キセキレイ		1	1				1	
27			ハクセキレイ					3	3	3	
28		アトリ	カワラヒワ	3		3	2	18	20	23	
29			ベニマシコ		1	1				1	
30			シメ					2	2	2	
31		ホオジロ	ホオジロ	1	9	10	1	3	4	14	
32			カシラダカ		40	40				40	
33	アオジ			2	2		6	6	8		
34	クロジ			2	2				2		
35	キジ	キジ		2	2		1	1	3		
36	スズメ	チメドリ	ソウシチョウ	6	6	12			12		
	7目	22科	36種	種数	18	20	28	9	22	25	36
				個体数	88	121	209	53	184	237	446

⑤ 鳥類の生息密度

ラインセンサス法は、設定したルート of 両側 25m 内で確認された鳥類を記録した結果であるため、ラインの距離×50m の面積中に生息する個体数を示すものである。この個体数を面積で除算することで、各種鳥類の生息密度が計算される。各期の各ルート及び、全ルートを合計した場合の、鳥類の 1ha あたりの生息密度を表 7-5 に示す。

生息密度は、群性の強いエナガ、スズメ、メジロ、ヒヨドリ、カシラダカなどで高くなる傾向が見られた。また、全種を通じて繁殖期より越冬期に鳥類の生息密度は高く、特に山麓部のルート 2 では、繁殖期と越冬期の差が顕著であった。

表 7-5 個体数密度

(羽/1ha)

種名	繁殖期			越冬期		
	ルート 1	ルート 2	全体	ルート 1	ルート 2	全体
キジバト		0.11	0.05		0.63	0.28
カワウ					0.11	0.05
ダイサギ		0.11	0.05			
ハイタカ					0.11	0.05
オオタカ		0.11	0.05			
ノスリ				0.08	0.11	0.09
コゲラ	0.42		0.23	0.25	0.32	0.28
アオゲラ				0.08		0.05
サンコウチョウ	0.17		0.09			
モズ				0.17	0.11	0.14
ハシブトガラス	0.25		0.14	0.34	0.74	0.52
ヤマガラ	0.08		0.05	0.08	0.21	0.14
シジュウカラ	0.34	0.32	0.33	0.17	0.11	0.14
ツバメ	0.67	1.38	0.98			
ヒヨドリ	0.84	0.21	0.56	1.60	4.13	2.72
ウグイス	0.59		0.33	0.25	0.74	0.47
ヤブサメ	0.17		0.09			
エナガ	1.01		0.56	0.84	1.27	1.03
センダイムシクイ	0.17		0.09			
メジロ	0.92		0.52	0.76	4.34	2.34
シロハラ				0.25	0.32	0.28
ジョウビタキ					0.21	0.09
キビタキ	0.34		0.19			
オオルリ	0.08		0.05			
スズメ	0.50	3.07	1.64		2.54	1.12
キセキレイ				0.08		0.05
ハクセキレイ					0.32	0.14
カワラヒワ	0.25	0.21	0.23		1.90	0.84
ベニマシコ				0.08		0.05
シメ					0.21	0.09
ホオジロ	0.08	0.11	0.09	0.76	0.32	0.56
カシラダカ				3.36		1.87
アオジ				0.17	0.63	0.37
クロジ				0.17		0.09
コジュケイ				0.17	0.11	0.14
ソウシチョウ	0.50		0.28	0.50		0.28
鳥類全種	7.39	5.61	6.60	10.17	19.47	14.29

⑥ 重要種

現地調査で確認された鳥類のうち、重要種に該当する種は2目4科6種であった。確認された重要種を表7-6、確認位置を図7-2に示す。

今回の調査で、環境省レッドリスト記載種が2種、大阪府レッドリスト記載種が5種確認された。種の保存法記載種は確認されなかった。重要種6種のうち、繁殖期に確認されたものはオオタカ、センダイムシクイ、コサメビタキの3種で、うちセンダイムシクイについては繁殖が確認された。

表 7-6 確認された重要種

No.	目名	科名	学名	種名	環境省 RL	大阪府 RL
1	タカ	タカ	<i>Accipiter nisus</i>	ハイタカ	NT	
2			<i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ	NT	NT
3			<i>Buteo buteo</i>	ノスリ		NT
4	スズメ	ムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ		NT
5		ヒタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ		VU
6		ホオジロ	<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ		NT
計	2目	4科	6種		2種	5種

VU：絶滅危惧Ⅱ類
NT：準絶滅危惧種

絶滅の危険が増大している種
現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種

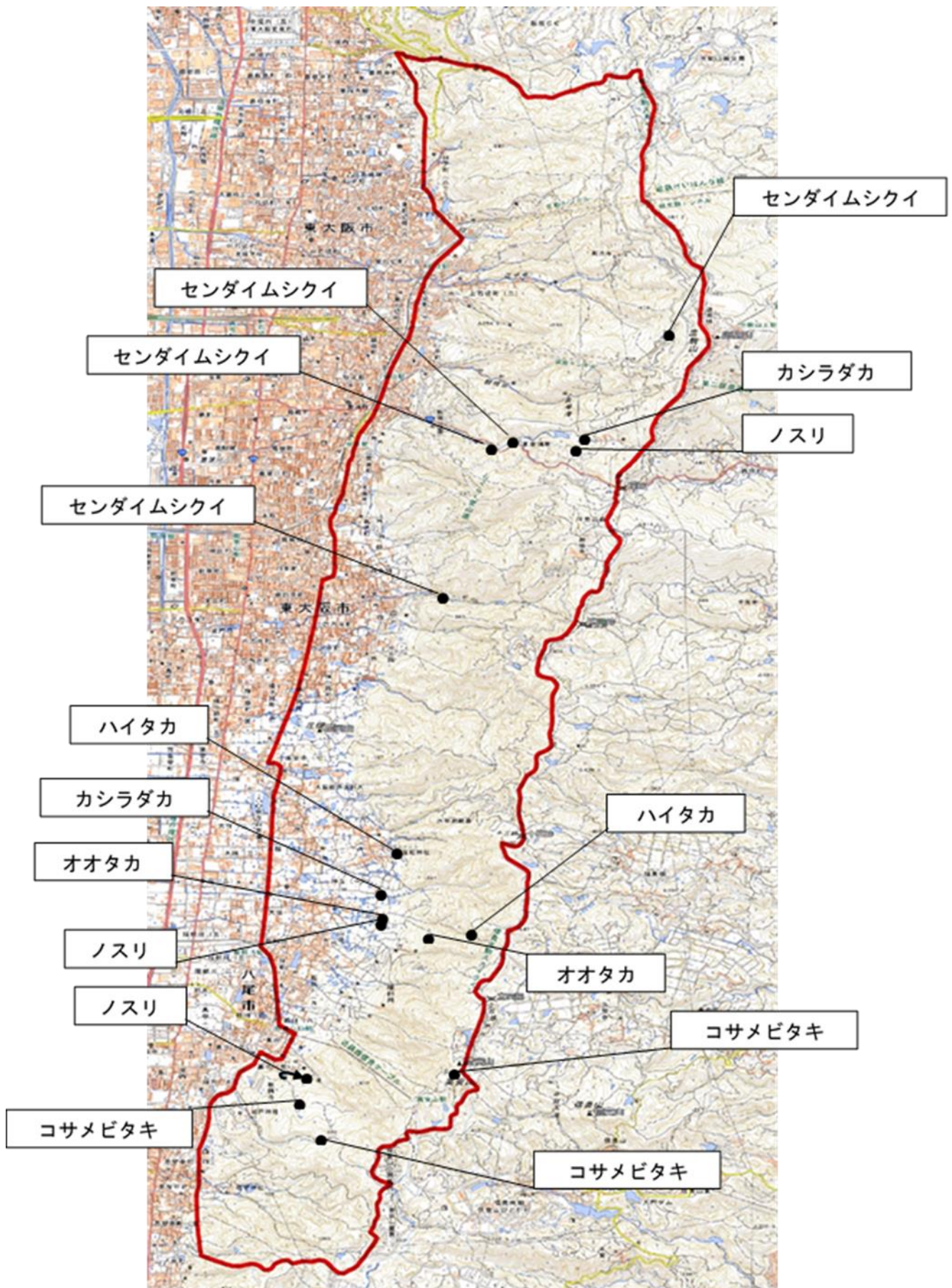


図7-2 重要種確認位置図 7-2 哺乳類現地調査結果

① 確認種

現地調査の結果、2目2科2種の哺乳類を確認した。確認された哺乳類を表7-7に示す。学名・分類群・配列は「日本の哺乳類 改定2版」(東海大学出版会、2008)に従った。近年、各地で増加による森林被害が問題視されているニホンジカの生息痕跡は確認されなかった。シカによる食害がないため、樹林下のササや低木は大阪の他地域より多く繁茂していた。

表 7-7 現地調査 哺乳類確認種

No.	目名	科名	学名	種名
1	食肉目	イタチ科	<i>Meles anakuma</i>	アナグマ
2	鯨偶蹄目	イノシシ科	<i>Sus scrofa</i>	イノシシ
合計	2目	2科		2種

② 重要種

現地調査で確認された哺乳類のうち、重要種に該当する種はみられなかった。

7-3 文献調査結果

表 5-1 で示したそれぞれの文献の記載概況を表 7-8 に示す。

表 7-8 文献概要

文献 No.	文献・情報名	文献・情報の内容
文献 1	なるかわ園地鳥類標識調査記録（山根みどり氏私信）	鳥類標識調査でなるかわ園地にて 2010 年～2017 年に確認された鳥類
文献 2	枚岡公園定例探鳥会出现鳥記録（日本野鳥の会大阪支部）	大阪支部にて毎月行われている探鳥会の枚岡公園における 2010 年～2019 年の観察鳥類
文献 3	大阪府鳥類目録 2016（日本野鳥の会大阪支部）	2002 年 4 月～2016 年 3 月までの大阪支部報、むくどり通信に記載された記録から、枚岡公園において確認された種を抜粋

③ 確認種

文献調査の結果、13目37科100種の鳥類を確認した。確認種を表7-9に示す。文献別では、文献1で31種、文献2で87種、文献3で88種が確認された。メボソムシクイ上種については、同表掲載のメボソムシクイまたはオオムシクイのいずれかである可能性があり、重複を避けるため1種として扱っていない。

文献調査で確認した鳥類の渡り区分は、留鳥41種、夏鳥18種、冬鳥22種、旅鳥15種、迷鳥1種であった（表7-9、図7-2）。現地調査と同様、留鳥の占める割合が最も高く、41%であった。また、調査時期が繁殖期、越冬期の2回であった現地調査では、時期的に確認されなかった旅鳥が、全体の15%を占めていた。なお、渡り区分の分類は、「大阪府鳥類目録2016」（2017年3月31日、（財）日本野鳥の会大阪支部）に従った。同目録において旅鳥（一部夏鳥）とされているコサメビタキは、現地調査における出現状況を踏まえて夏鳥とした。また、冬鳥（一部留鳥）とされているトラツグミ、旅鳥（一部冬鳥）とされているアカハラについては、現地における確認が得られなかったため、それぞれ冬鳥、旅鳥として扱った。

渡り区分	種数	割合
留鳥	41種	41%
夏鳥	18種	18%
冬鳥	22種	22%
旅鳥	15種	15%
迷鳥	1種	1%
外来	3種	3%

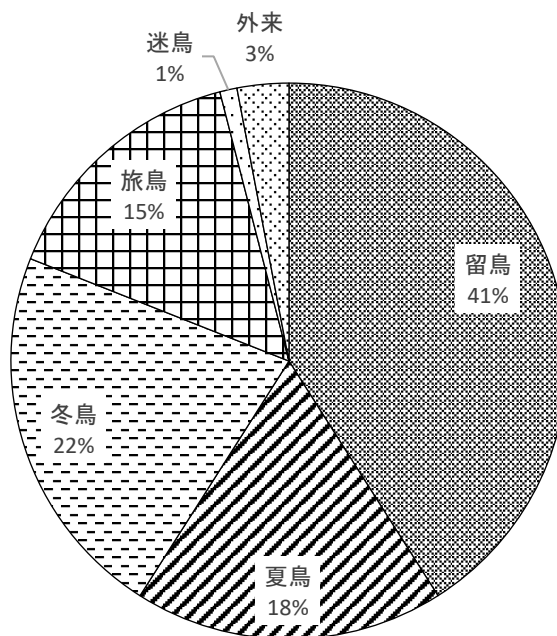


図7-2 文献調査 渡り区分の内訳

表 7-9 文献調査 鳥類確認種(1/2)

No.	目名	科名	学名	種名	文献 1	文献 2	文献 3	渡り 区分	
1	キジ	キジ	<i>Syrnaticus soemmerringii</i>	ヤマドリ		○	○	留鳥	
2			<i>Phasianus colchicus</i>	キジ		○	○	留鳥	
3	カモ	カモ	<i>Anas zonorhyncha</i>	カルガモ		○	○	留鳥	
4	ハト	ハト	<i>Streptopelia orientalis</i>	キジバト		○	○	留鳥	
5			<i>Treron sieboldii</i>	アオバト	○	○	○	留鳥	
6	カツオドリ	ウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	カワウ		○	○	留鳥	
7	ペリカン	サギ	<i>Gorsachius goisagi</i>	ミゾゴイ			○	夏鳥	
8			<i>Ardea cinerea</i>	アオサギ		○	○	留鳥	
9			<i>Ardea alba</i>	ダイサギ		○		留鳥	
10			<i>Egretta garzetta</i>	コサギ			○	○	留鳥
11	カッコウ	カッコウ	<i>Hierococcyx hyperythrus</i>	ジュウイチ			○	旅鳥	
12			<i>Cuculus poliocephalus</i>	ホトトギス		○	○	夏鳥	
13			<i>Cuculus optatus</i>	ツツドリ		○	○	夏鳥	
14	アマツバメ	アマツバメ	<i>Apus pacificus</i>	アマツバメ		○	○	旅鳥	
15	タカ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	ミサゴ		○	○	留鳥	
16		タカ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	ハチクマ		○	○	夏鳥	
17			<i>Milvus migrans</i>	トビ		○	○	留鳥	
18			<i>Accipiter gularis</i>	ツミ		○	○	留鳥	
19			<i>Accipiter nisus</i>	ハイタカ		○	○	冬鳥	
20			<i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ		○	○	留鳥	
21			<i>Butastur indicus</i>	サシバ		○	○	夏鳥	
22			<i>Buteo buteo</i>	ノスリ		○	○	冬鳥	
23			<i>Buteo lagopus</i>	ケアシノスリ			○	○	迷鳥
24			<i>Nisaetus nipalensis</i>	クマタカ			○	○	留鳥
25	フクロウ	フクロウ	<i>Ninox scutulata</i>	アオバズク			○	夏鳥	
26	ブッポウソウ	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	カワセミ	○	○	○	留鳥	
27		ブッポウソウ	<i>Eurystomus orientalis</i>	ブッポウソウ		○	○	旅鳥	
28	キツツキ	キツツキ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	コゲラ	○	○	○	留鳥	
29			<i>Dendrocopos major</i>	アカゲラ		○	○	冬鳥	
30			<i>Picus awokera</i>	アオゲラ	○	○	○	留鳥	
31	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco tinnunculus</i>	チョウゲンボウ		○	○	留鳥	
32			<i>Falco peregrinus</i>	ハヤブサ		○	○	留鳥	
33	スズメ	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	サンショウクイ		○	○	夏鳥	
34		カササギヒタキ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	サンコウチョウ	○	○	○	夏鳥	
35		モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	モズ	○	○	○	留鳥	
36		カラス	<i>Garrulus glandarius</i>	カケス		○	○	留鳥	
37			<i>Corvus corone</i>	ハシボソガラス			○	○	留鳥
38			<i>Corvus macrorhynchos</i>	ハシブトガラス			○	○	留鳥
39		クイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	クイタダキ		○	○	冬鳥	
40		シジュウカラ	<i>Poecile montanus</i>	コガラ	○	○	○	留鳥	
41			<i>Poecile varius</i>	ヤマガラ	○	○	○	留鳥	
42			<i>Periparus ater</i>	ヒガラ		○	○	○	留鳥
43			<i>Parus minor</i>	シジュウカラ	○	○	○	留鳥	
44		ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	ツバメ		○	○	夏鳥	
45	<i>Hirundo daurica</i>		コシアカツバメ		○		夏鳥		
46	<i>Delichon dasypus</i>		イワツバメ			○	○	夏鳥	
47	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	ヒヨドリ	○	○	○	留鳥		
48	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	ウグイス	○	○	○	留鳥		
49		<i>Urosphena squameiceps</i>	ヤブサメ	○	○	○	夏鳥		
50	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	エナガ	○	○	○	留鳥		
51	ムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>	オオムシクイ		○		旅鳥		
52		<i>Phylloscopus xanthodryas</i>	メボソムシクイ		○	○	旅鳥		
-		<i>Phylloscopus borealis s.l.</i>	メボソムシクイ上種	○			旅鳥		
53		<i>Phylloscopus borealoides</i>	エゾムシクイ			○	○	旅鳥	
54		<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ	○	○	○	夏鳥		
55	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	メジロ	○	○	○	留鳥		
56	ヨシキリ	<i>Acrocephalus orientalis</i>	オオヨシキリ			○	夏鳥		
57	レンジャク	<i>Bombycilla japonica</i>	ヒレンジャク			○	冬鳥		
58	ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	ミソサザイ		○	○	留鳥		

表 7-9 文献調査 鳥類確認種(2/2)

No.	目名	科名	学名	種名	文献 1	文献 2	文献 3	渡り 区分	
59	スズメ	ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>	ムクドリ	○	○	○	留鳥	
60		ヒタキ	<i>Zoothera sibirica</i>	マミジロ		○	○	旅鳥	
61			<i>Zoothera dauma</i>	トラツグミ			○	○	冬鳥
62			<i>Turdus cardis</i>	クロツグミ		○	○	○	夏鳥
63			<i>Turdus obscurus</i>	マミチャジナイ		○	○	○	旅鳥
64			<i>Turdus pallidus</i>	シロハラ		○	○	○	冬鳥
65			<i>Turdus chrysolaus</i>	アカハラ		○	○	○	旅鳥
66			<i>Turdus naumanni</i>	ツグミ		○	○	○	冬鳥
67			<i>Luscinia akahige</i>	コマドリ			○	○	旅鳥
68			<i>Luscinia cyane</i>	コルリ				○	旅鳥
69			<i>Tarsiger cyanurus</i>	ルリビタキ		○	○	○	冬鳥
70			<i>Phoenicurus aureus</i>	ジョウビタキ		○	○	○	冬鳥
71			<i>Saxicola torquatus</i>	ノビタキ			○	○	旅鳥
72			<i>Monticola solitarius</i>	イソヒヨドリ			○		留鳥
73			<i>Muscicapa griseisticta</i>	エゾビタキ			○	○	旅鳥
74			<i>Muscicapa sibirica</i>	サメビタキ			○	○	旅鳥
75			<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ		○	○	○	夏鳥
76			<i>Ficedula narcissina</i>	キビタキ		○	○	○	夏鳥
77			<i>Ficedula mugimaki</i>	ムギマキ			○		旅鳥
78			<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	オオルリ		○	○	○	夏鳥
79		イワヒバリ	<i>Prunella rubida</i>	カヤクグリ		○		冬鳥	
80		スズメ	<i>Passer rutilans</i>	ニューナイスズメ		○	○	冬鳥	
81			<i>Passer montanus</i>	スズメ			○	○	留鳥
82		セキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	キセキレイ			○	○	留鳥
83			<i>Motacilla alba</i>	ハクセキレイ			○	○	留鳥
84			<i>Motacilla grandis</i>	セグロセキレイ			○	○	留鳥
85			<i>Anthus hodgsoni</i>	ビンズイ			○	○	冬鳥
86		アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	アトリ			○	○	冬鳥
87			<i>Chloris sinica</i>	カワラヒワ			○	○	留鳥
88	<i>Carduelis spinus</i>		マヒワ			○	○	冬鳥	
89	<i>Uragus sibiricus</i>		ベニマシコ			○	○	冬鳥	
90	<i>Pyrrhula pyrrhula</i>		ウソ			○	○	冬鳥	
91	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>		シメ			○	○	冬鳥	
92	<i>Eophona personata</i>		イカル				○	○	留鳥
93	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	ホオジロ		○	○	○	留鳥	
94		<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ			○	○	冬鳥	
95		<i>Emberiza elegans</i>	ミヤマホオジロ			○	○	冬鳥	
96		<i>Emberiza spodocephala</i>	アオジ		○	○	○	冬鳥	
97		<i>Emberiza variabilis</i>	クロジ		○	○	○	冬鳥	
98	キジ	キジ	<i>Bambusicola thoracicus</i>	コジュケイ		○	○	外来	
99	ハト	ハト	<i>Columba livia</i>	カワラバト(ドバト)		○	○	外来	
100	スズメ	チメドリ	<i>Leiothrix lutea</i>	ソウシチョウ	○	○	○	外来	
計	13 目	37 科	100 種		31 種	92 種	93 種		

- ・分類及び配列は「日本鳥類目録 改訂第7版」(2012年, 日本鳥学会)に従った。
- ・渡り区分の分類は、「大阪府鳥類目録 2016」(2017年3月31日, (財)日本野鳥の会大阪支部)に従った。
- ・メボソムシクイ上種は、同じ上種のオオムシクイまたはメボソムシクイが確認されている場合、種数として計上していない。

④ 重要種

文献調査で確認された鳥類のうち、重要種に該当する種は7目13科22種であった。確認された重要種を表7-10に示す。

今回の調査で、種の保存法記載種が2種、環境省レッドリスト記載種が11種、大阪府レッドリスト記載種が17種確認された。該当種はいずれも陸鳥で、タカ目、ハヤブサ目等、猛禽類が多く含まれている。

表 7-10 確認された重要種

No.	目名	科名	学名	種名	種の保存法	環境省 RL	大阪府 RL		
1	ペリカン	サギ	<i>Gorsachius goisagi</i>	ミゾゴイ		VU	VU		
2	カッコウ	カッコウ	<i>Cuculus optatus</i>	ツツドリ			NT		
3	タカ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	ミサゴ		NT			
4		タカ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	ハチクマ		NT	CR+EN		
5			<i>Accipiter gularis</i>	ツミ			VU		
6			<i>Accipiter nisus</i>	ハイタカ		NT			
7			<i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ		NT	NT		
8			<i>Butastur indicus</i>	サシバ		VU	CR+EN		
9			<i>Buteo buteo</i>	ノスリ			NT		
10			<i>Nisaetus nipalensis</i>	クマタカ	○	EN	CR+EN		
11			フクロウ	フクロウ	<i>Ninox scutulata</i>	アオバズク			VU
12			ブッポウソウ	ブッポウソウ	<i>Eurystomus orientalis</i>	ブッポウソウ		EN	
13	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	ハヤブサ	○	VU			
14	スズメ	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	サンショウクイ		VU	VU		
15		ツバメ	<i>Hirundo daurica</i>	コシアカツバメ			NT		
16		ムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>	オオムシクイ		DD			
17			<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ			NT		
18		ヨシキリ	<i>Acrocephalus orientalis</i>	オオヨシキリ			NT		
19		ヒタキ	<i>Zoothera dauma</i>	トラツグミ			NT		
20			<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ			VU		
21		ホオジロ	<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ			NT		
22			<i>Emberiza elegans</i>	ミヤマホオジロ			NT		
計		7目	13科	22種		2種	11種	17種	

CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 絶滅の危機に瀕している種
 VU：絶滅危惧Ⅱ類 絶滅の危険が増大している種
 NT：準絶滅危惧種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種
 DD：情報不足 評価するだけの情報が不足している種

8. まとめ

1. 現地調査と文献調査により、14目38科103種の鳥類が確認され、そのうち22種が重要種であった(表8-1、表8-2)。
2. 現地調査の結果、12目27科54種の鳥類が確認された。各調査回の確認種数は繁殖期が36種、越冬期が40種であった。また、確認した鳥類の渡り区分の内訳は、留鳥52%、夏鳥16%、冬鳥28%と、留鳥の割合が半数以上を占め、次いで冬鳥の割合が高い結果となった。繁殖が確認された種(Aランク)は6種、繁殖の可能性が高い種(Bランク)は24種であった。

ラインセンサス法で記録された鳥類は、7目22科36種446羽であり、ルート1で28種209羽、ルート2で25種237羽であった。山林のルート1では繁殖期に夏鳥が多く18種88羽、越冬期には冬鳥が代わって20種121羽と、時期による差が小さかった。一方山麓のルート2では、繁殖期に9種53羽、越冬期に22種184羽と、種数、個体数とも越冬期に増加した。生息密度は多くの種で繁殖期より越冬期の方が高い傾向があった。
3. 文献調査の結果、13目37科100種の鳥類が確認され、そのうち22種が重要種であった。これら確認種の渡り区分の内訳は、留鳥41%、夏鳥18%、冬鳥22%、旅鳥15%、迷鳥1%であり、現地調査の結果と同様に、留鳥が一番高く、次いで冬鳥が高い割合を示した。
4. 現地調査における重要種はすべて陸鳥で、環境省レッドリスト記載種2種、大阪府レッドリスト記載種5種が確認された。また、文献調査における重要種もすべて陸鳥で、種の保存法記載種は2種、環境省レッドリスト記載種は11種、大阪府レッドリスト記載種は17種であった。重要種の内訳では、タカ目やハヤブサ目等の猛禽類の占める比率が高かった。
5. このように生駒鳥獣保護区は、一年中生息する留鳥を主体として、冬期に滞在する冬鳥、次いで夏季に渡来して繁殖する夏鳥が多く生息する、山野の鳥類の生息に適した環境であると考えられた。また、生駒山地の主稜線から山麓の農耕地・市街地に至る勾配に準じて、繁殖期には主に山地で繁殖する鳥類が多く見られ、越冬期には特に山麓部に高密度で鳥類が生息するという、時季に即した生息状況の変化が認められた。確認された鳥類の中には法律によって保護されるクマタカやハヤブサを筆頭に、オオタカやフクロウなど、生態系の上位を占める猛禽類も多く含まれ、地域の生態系が充実していることが示唆された。以上より、生駒鳥獣保護区は府域の鳥類の生息地として非常に貴重な地域であると言える。
6. 哺乳類については、現地調査によって2目2科2種の生息が確認されたが、重要種は確認されなかった。近年、各地で増加による森林被害が問題視されているニホンジカの生息痕跡は確認されず、樹林下のササや低木は大阪の他地域より多く繁茂していた。
7. 生駒鳥獣保護区には、尾根沿いに府民の森の中河内の4園地が営業し、山麓部にある枚岡公園や枚岡神社とともに、自然とのふれあいの場として多くの利用者を受け入れている。また、高安地域では自然再生事業の取り組みもあり、地域住民が自然環境との関係性を模索する場としての機能も有している。生駒鳥獣保護区は、今後も保護区として更新を続け、身近に体感できる優良な野生鳥獣の生息地として、より良い環境を整えることが重要であると考えられる。

表 8-1 現地調査・文献調査の確認種(1/2)

No.	目名	科名	学名	種名	現地調査		文献調査
					繁殖期	越冬期	
1	キジ	キジ	<i>Syrnaticus soemmerringii</i>	ヤマドリ			○
2			<i>Phasianus colchicus</i>	キジ			○
3	カモ	カモ	<i>Anas zonorhyncha</i>	カルガモ	○		○
4			<i>Anas clypeata</i>	ハシビロガモ		○	
5			<i>Aythya fuligula</i>	キンクロハジロ		○	
6	カイツブリ	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>	カイツブリ	○	○	
7	ハト	ハト	<i>Streptopelia orientalis</i>	キジバト	○	○	○
8			<i>Treron sieboldii</i>	アオバト			○
9	カツオドリ	ウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	カワウ	○	○	○
10	ペリカン	サギ	<i>Gorsachius goisagi</i>	ミゾゴイ			○
11			<i>Ardea cinerea</i>	アオサギ	○	○	○
12			<i>Ardea alba</i>	ダイサギ	○		○
13			<i>Egretta garzetta</i>	コサギ	○		○
14	カッコウ	カッコウ	<i>Hierococyx hyperythrus</i>	ジュウイチ			○
15			<i>Cuculus poliocephalus</i>	ホトギス	○		○
16			<i>Cuculus optatus</i>	ツツドリ			○
17	アマツバメ	アマツバメ	<i>Apus pacificus</i>	アマツバメ			○
18	タカ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	ミサゴ			○
19		タカ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	ハチクマ			○
20			<i>Milvus migrans</i>	トビ			○
21			<i>Accipiter gularis</i>	ツミ			○
22			<i>Accipiter nisus</i>	ハイタカ		○	○
23			<i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ	○	○	○
24			<i>Butastur indicus</i>	サシバ			○
25			<i>Buteo buteo</i>	ノスリ		○	○
26			<i>Buteo lagopus</i>	ケアシノスリ			○
27			<i>Nisaetus nipalensis</i>	クマタカ			○
28			フクロウ	フクロウ	<i>Ninox scutulata</i>	アオバズク	
29	ブッポウソウ	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	カワセミ	○		○
30		ブッポウソウ	<i>Eurystomus orientalis</i>	ブッポウソウ			○
31	キツツキ	キツツキ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	コゲラ	○	○	○
32			<i>Dendrocopos major</i>	アカゲラ		○	○
33			<i>Picus awokera</i>	アオゲラ	○	○	○
34	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco tinnunculus</i>	チョウゲンボウ		○	○
35			<i>Falco peregrinus</i>	ハヤブサ			○
36	スズメ	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	サンショウクイ			○
37		カササギヒタキ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	サンコウチョウ	○		○
38		モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	モズ		○	○
39		カラス	<i>Garrulus glandarius</i>	カケス	○		○
40			<i>Corvus corone</i>	ハシボソガラス	○	○	○
41			<i>Corvus macrorhynchos</i>	ハシブトガラス	○	○	○
42		キクイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	キクイタダキ			○
43		シジュウカラ	<i>Poecile montanus</i>	コガラ			○
44			<i>Poecile varius</i>	ヤマガラ	○	○	○
45			<i>Periparus ater</i>	ヒガラ			○
46			<i>Parus minor</i>	シジュウカラ	○	○	○
47	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	ツバメ	○		○	
48		<i>Hirundo daurica</i>	コシアカツバメ			○	
49		<i>Delichon dasypus</i>	イワツバメ			○	
50	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	ヒヨドリ	○	○	○	
51	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	ウグイス	○	○	○	
52		<i>Urosphena squameiceps</i>	ヤブサメ	○		○	

表 8-1 現地調査・文献調査の確認種(2/2)

No.	目名	科名	学名	種名	現地調査		文献調査
					繁殖期	越冬期	
53	スズメ	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	エナガ	○	○	○
54		ムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>	オオムシクイ			○
55			<i>Phylloscopus xanthodryas</i>	メボソムシクイ			○
-			<i>Phylloscopus borealis s.l.</i>	メボソムシクイ上種			○
56			<i>Phylloscopus borealoides</i>	エゾムシクイ			○
57			<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ	○		○
58		メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	メジロ	○	○	○
59	ヨシキリ	<i>Acrocephalus orientalis</i>	オオヨシキリ			○	
60	レンジャク	<i>Bombycilla japonica</i>	ヒレンジャク			○	
61	ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	ミソサザイ			○	
62	ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>	ムクドリ			○	
63	ヒタキ	<i>Zoothera sibirica</i>	マミジロ			○	
64		<i>Zoothera dauma</i>	トラツグミ			○	
65		<i>Turdus cardis</i>	クロツグミ	○		○	
66		<i>Turdus obscurus</i>	マミチャジナイ			○	
67		<i>Turdus pallidus</i>	シロハラ		○	○	
68		<i>Turdus chrysolaus</i>	アカハラ			○	
69		<i>Turdus naumanni</i>	ツグミ		○	○	
70		<i>Luscinia akahige</i>	コマドリ			○	
71		<i>Luscinia cyane</i>	コルリ			○	
72		<i>Tarsiger cyanurus</i>	ルリビタキ		○	○	
73		<i>Phoenicurus aureoreus</i>	ジョウビタキ		○	○	
74		<i>Saxicola torquatus</i>	ノビタキ			○	
75		<i>Monticola solitarius</i>	イソヒヨドリ			○	
76		<i>Muscicapa griseisticta</i>	エゾビタキ			○	
77		<i>Muscicapa sibirica</i>	サメビタキ			○	
78		<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ	○		○	
79		<i>Ficedula narcissina</i>	キビタキ	○		○	
80		<i>Ficedula mugimaki</i>	ムギマキ			○	
81		<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	オオルリ	○		○	
82		イワヒバリ	<i>Prunella rubida</i>	カヤクグリ			○
83	スズメ	<i>Passer rutilans</i>	ニューナイスズメ			○	
84		<i>Passer montanus</i>	スズメ	○	○	○	
85	セキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	キセキレイ		○	○	
86		<i>Motacilla alba</i>	ハクセキレイ	○	○	○	
87		<i>Motacilla grandis</i>	セグロセキレイ			○	
88		<i>Anthus hodgsoni</i>	ピンズイ			○	
89	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	アトリ			○	
90		<i>Chloris sinica</i>	カワラヒワ	○	○	○	
91		<i>Carduelis spinus</i>	マヒワ			○	
92		<i>Uragus sibiricus</i>	ベニマシコ		○	○	
93		<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	ウソ		○	○	
94		<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	シメ		○	○	
95		<i>Eophona personata</i>	イカル	○	○	○	
96	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	ホオジロ	○	○	○	
97		<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ		○	○	
98		<i>Emberiza elegans</i>	ミヤマホオジロ			○	
99		<i>Emberiza spodocephala</i>	アオジ		○	○	
100		<i>Emberiza variabilis</i>	クロジ		○	○	
101	キジ	キジ	<i>Bambusicola thoracicus</i>	コジュケイ	○	○	○
102	ハト	ハト	<i>Columba livia</i>	カワラバト(ドバト)			○
103	スズメ	チメドリ	<i>Leiothrix lutea</i>	ソウシチョウ	○	○	○
計	14 目	38 科	103 種		36 種	40 種	100 種

表 8-2 現地調査・文献調査の重要種

No.	目名	科名	学名	種名	現地調査		文献調査	種の保存法	環境省 RL	大阪府 RL	
					繁殖	越冬					
1	ペリカン	サギ	<i>Gorsachius goisagi</i>	ミゾゴイ			○		VU	VU	
2	カッコウ	カッコウ	<i>Cuculus optatus</i>	ツツドリ			○			NT	
3	タカ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	ミサゴ			○		NT		
4		タカ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	ハチクマ			○		NT	CR+EN	
5			<i>Accipiter gularis</i>	ツミ			○			VU	
6			<i>Accipiter nisus</i>	ハイタカ		○	○		NT		
7			<i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ	○	○	○		NT	NT	
8			<i>Butastur indicus</i>	サシバ			○		VU	CR+EN	
9			<i>Buteo buteo</i>	ノスリ		○	○			NT	
10			<i>Nisaetus nipalensis</i>	クマタカ			○	○	EN	CR+EN	
11		フクロウ	フクロウ	<i>Ninox scutulata</i>	アオバズク			○			VU
12		ブッポウソウ	ブッポウソウ	<i>Eurystomus orientalis</i>	ブッポウソウ			○		EN	
13	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	ハヤブサ			○	○	VU		
14	スズメ	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	サンショウクイ			○		VU	VU	
15		ツバメ	<i>Hirundo daurica</i>	コシアカツバメ			○			NT	
16		ムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>	オオムシクイ			○		DD		
17			<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ	○		○			NT	
18		ヨシキリ	<i>Acrocephalus orientalis</i>	オオヨシキリ			○			NT	
19		ヒタキ	<i>Zoothera dauma</i>	トラツグミ			○			NT	
20			<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ	○		○			VU	
21		ホオジロ	<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ		○	○			NT	
22			<i>Emberiza elegans</i>	ミヤマホオジロ			○			NT	
7 目		13 科	22 種		3 種	4 種	22 種	2 種	11 種	17 種	

CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 絶滅の危機に瀕している種
 VU：絶滅危惧Ⅱ類 絶滅の危険が増大している種
 NT：準絶滅危惧種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種
 DD：情報不足 評価するだけの情報が不足している種

9. 参考文献

- 「環境省レッドリスト 2019」(2019年, 環境省)
- 「大阪府レッドリスト 2014」(2014年, 大阪府)
- 「「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令の一部を改正する政令」の閣議決定について」(2019年1月, 環境省報道発表資料)
- 「大阪府鳥類目録 2016」(2016年, 日本野鳥の会大阪支部)
- 「日本鳥類目録 改訂第7版」(2012年, 日本鳥学会)
- 「生駒山鳥獣保護区指定調査報告書」(大阪府, 2011年)
- 「八尾の自然と文化」(岡野浩・西辻豊・太田博之編, 2017年9月)
- 「事業報告書」(一般財団法人大阪府みどり公社, 2019年3月)
- 「生物多様性保全上重要な里地里山」(環境省,
<https://www.env.go.jp/nature/satoyama/jyuuyousatoyama.html>)
- 「関西の活かしたい自然エリア」(関西広域連合, 2016年11月,
<https://www.kouiki-kansai.jp/material/files/group/10/1479092305.pdf>)